

予報期間 6月8日から6月14日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 10日から11日は、前線が西日本から東日本南岸付近に停滞する。高気圧が沖縄・奄美へ張り出す。
- 11日は、気圧の谷が北日本を通過する。
- 12日から13日は、前線は西日本付近に停滞するが、東日本付近では不明瞭となる。
- 14日は、日本の南の高気圧をまわる湿った空気が西日本と東日本付近へ流れ込む。

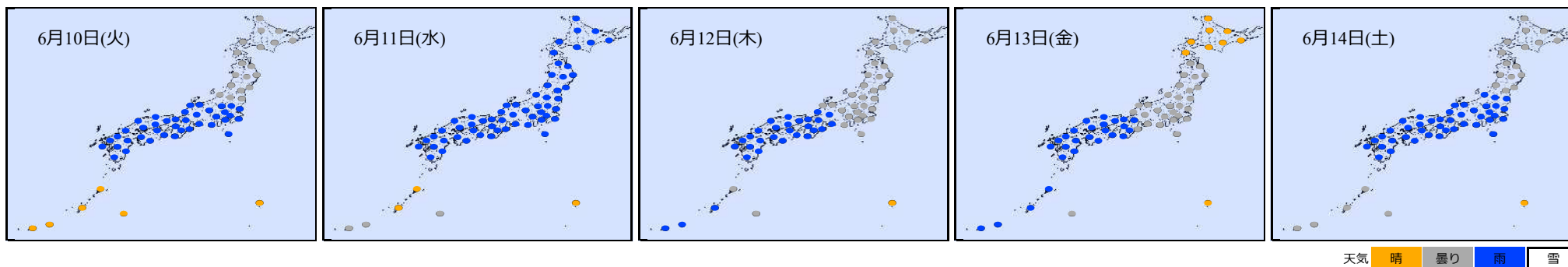
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10日頃にかけて、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となる見込み。西日本を中心に大雨となる所があり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

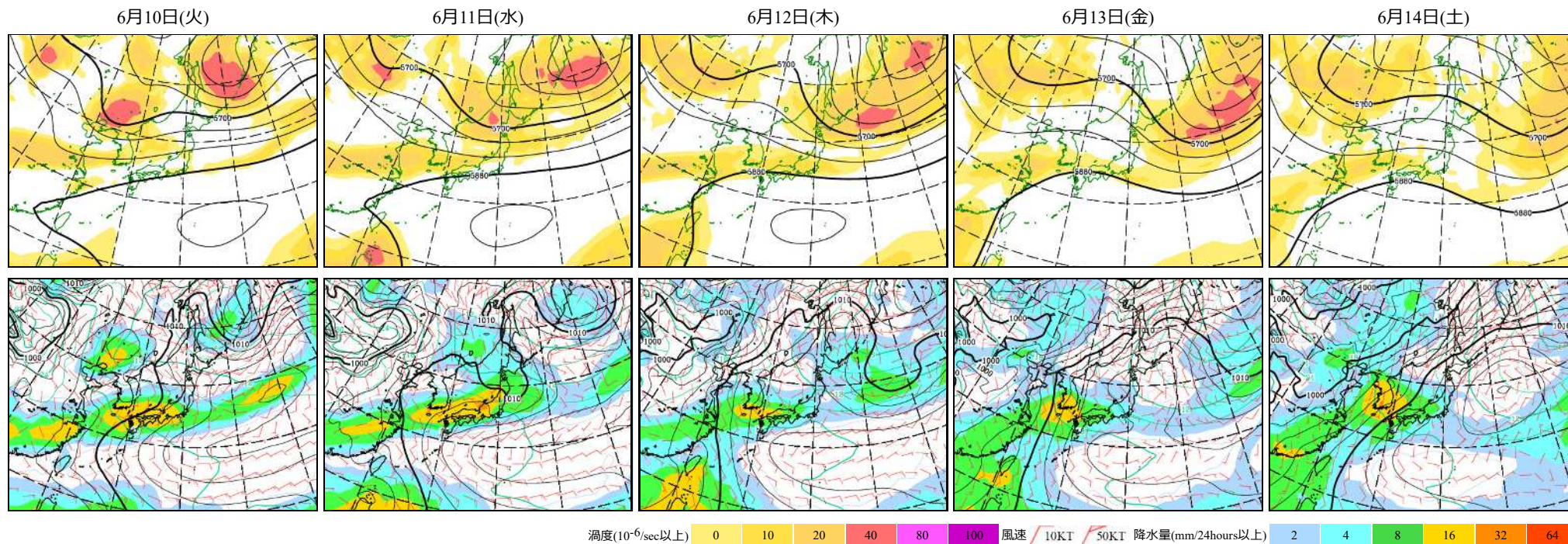
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

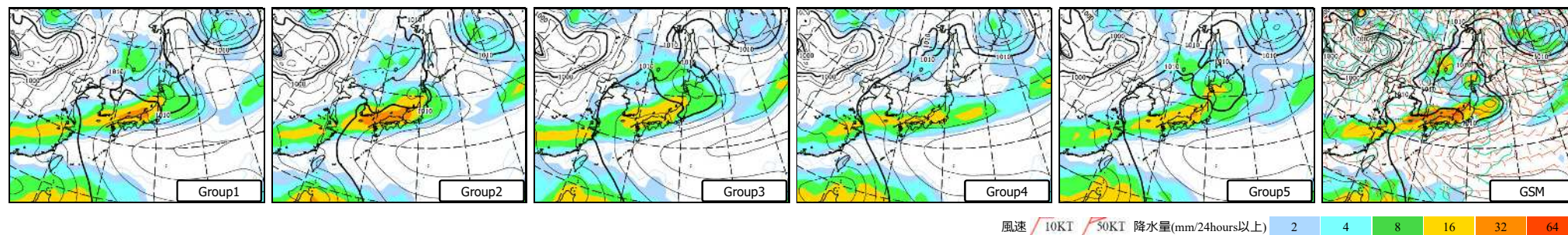


- 北日本は、曇りや晴れの日が多いが、11日は雨の降る所が多い。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、10日と11日は晴れる所が多く、その後は曇りや雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月11日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、11日は北日本を通過する気圧の谷が明瞭となり、北日本の降水確率が大きくなった。
- 各モデルとも、10日は前線が西・東日本付近にのび、11日は気圧の谷が北日本を通過する予想はおおむね揃っている。12日以降は、東シナ海付近に予想されている熱帯じょう乱の動向はモデル間の差が大きい。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の後半は特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。